

# 鶺鴒

～伝統を支える舞台裏～



1300年あまりの歴史をほこる長良川の鶺鴒。  
伝統漁法である鶺鴒を支えるのは鶺鴒匠だけではありません。  
岐阜市の自慢である「鶺鴒」を見つめ直してみませんか……

取材協力:岐阜市商工観光部 観光コンベンション室、鶺鴒の家、すぎ山

6人の鶺鴒匠が薦める

## 鶺鴒 ここを見逃すな!

### 1 一羽の鶺鴒の動きを…

一般的に鶺鴒は全体の雰囲気を見てしまいがちです。でも、一羽の鶺鴒の動きに注目してみましょう。一羽の鶺鴒がどのような動きをして鮎を獲るのか、鮎を飲んだ鶺鴒が鶺鴒匠にたくり寄せられ、どのようにして鮎をはき出すのかなど、鶺鴒匠が操る十数羽の鶺鴒の中から、一羽の鶺鴒だけに注目して鶺鴒を見るとすばらしい「鶺鴒の技」「鶺鴒匠の技」に気づけるかもしれませんよ。

### 2 耳をすまして音を…

変わる、清流長良川の水が流れる音。さらには、それら全ての音が金華山の山肌にとだます音。目を閉じて空間の中に響く「音」そのものを楽しむこともできますね。

### 3 篝火に浮かぶ鶺鴒匠の顔を…



火の粉で穴の開いた烏帽子

鮎をおびき出すための篝火の勢いは相当なものです。火の粉もたくさん飛び散ります。火の粉のために烏帽子に穴が開くほどです。鶺鴒匠は様子を見ながら、その篝火の向きを変えていきます。篝火を支える篝棒の付け根にムクゲの枝葉がはさんであり、向きを変えられるように滑りやすくしてあるのです。十数羽の鶺鴒を操りながら、篝火とも格闘している鶺鴒匠。そんな鶺鴒匠の真剣な表情も見てみたいものです。

取材に協力してくださった鶺鴒匠さん



山下純司さん



杉山雅彦さん



杉山市三郎さん



山下哲司さん



杉山雅彦さん



杉山秀二さん

「ホウ、ホウ！」と鶺鴒を励ます鶺鴒匠の声。船頭が鮎をおびき出すために鶺鴒舟のふちをたたき「ドン、ドン！」という音。篝火の赤松が燃える「パチ、パチッ！」という音。場所や水量によって



総がらみ



ムクゲの枝葉



狩り下り